

機関番号：34516
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2008～2010
課題番号：20791808
研究課題名（和文） ピアサポートを用いたホームレス健康支援システムの開発
研究課題名（英文） Development of the homeless healthy support system using the peer support
研究代表者
佐々木 八千代（SASAKI YACHIYO）
園田学園女子大学 健康科学部 講師
研究者番号：10382243

研究成果の概要（和文）：

ホームレス者においては、健康行動とソーシャルサポートには関連が認められず、「仲間」からのサポートよりも支援者からのサポートが受け入れ易いことが示唆された。健康支援を行う際には生活問題の解決が重要であるが、キーパーソンとなりうる支援者が本人を代弁し、さらには同じ目線で支援をすることが必要である。ホームレスの健康支援は、ピアサポートグループよりも継続的に関わる支援者を中心としたサポートグループが有効であると考えられた。

研究成果の概要（英文）：

This study showed that no association between health behavior and social support among homeless. It was revealed that the support from an expert was preferred to a peer. When I perform healthy support, solution to issue of life is important. The expert who can become the key person speaks for the person himself, and, besides, it is necessary for the same glance to support. As for the homeless, it was thought that the support group led by the expert than a peer support group was effective.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：地域・老年看護学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：ホームレス 健康支援 ピアサポート

1. 研究開始当初の背景

1990年代からの長引く不況による失業者の増加に伴い、ホームレス者が増加してきた。国は平成14年にホームレスの自立の支援等に関する特別措置法を施行し、自治体ごとにホームレス者の生活問題や健康問題に対するサポートシステムが構築されつつある。平成19年1月に実施されたホームレスの実態に関する全国調査報告書によると全国のホームレス者の数は、18,564人であり、平成15年の調査から6,732人の減少を認めている。これは、ホームレス者の自立支援の効果であると考えられる。しかし、同調査では、巡回相談や緊急的な一時宿泊場所の利用が少ないことや、健康問題を自覚していても必要な支援を得ていないという実態も明らかになった。つまり、サポートシステムが構築されてもホームレス者自身が「自己の健康問題を解決するために必要な支援を得る」という健康行動がとれていないと考えられ、依然として支援が必要な状況である。

申請者は、平成17年度～平成19年度にホームレス者の結核に関する知識、態度、保健行動を明らかにし、ホームレス者のエンパワメントを基盤とした健康支援のあり方を検討した。その結果、結核検診の受診や治療継続などの健康行動には結核に関する知識よりも情緒的サポートが関連しているということが示唆された(投稿準備中)。また、これまで、一般集団を対象とした研究では、社会的支援があるほうが健康行動をとると報告されていることから、ホームレス者の健康行動には、情報提供によって知識を獲得するだけでなく、社会的支援も重要であると考えた。しかしながら、これまでのホームレス者の生活や健康に関する調査では、実態調査がほとんど

で、社会的支援と健康行動の関連についての報告は見当たらない。

2. 研究の目的

ホームレス者への社会的支援と健康行動の関連を明らかにするとともにピアサポートグループを構築し、その有効性と継続可能性について検討することを目的とした。

3. 研究の方法

- (1) ホームレス者の社会的支援と健康行動に関する質問紙調査を行い、収集されたデータを量的に分析し、健康行動と社会的支援の関連を明らかにする。
- (2) ピアサポートグループ構築に向けた準備として、専門職および支援者のピアサポート協力者ネットワークをつくる。文献検討や協力者の助言を受け、ピアサポートグループへの介入プログラムを検討する。介入開始までの調整やフィールドワークをまとめ、ピアサポートグループ構築のプロセスを明らかにする。
- (3) ピアサポートグループの有効性と継続可能性の検討のための事前調査。
- (4) ホームレス者の情緒的サポートに焦点をあてたピアサポートの有効性と継続可能性について面接調査により検討する。

4. 研究成果

ソーシャルサポートと健康管理意識との関連を見ている平成20年度からのデータでは、ホームレス状態であるものがそうでないものと比べて結核検診の受診割合が多かった。これは、市の結核検診がホー

ムレス者を対象に実施されていることを反映した結果と考えられる。また、ソーシャルサポートの得点では、飲酒しているものや食事回数が多いものほど得点が高かった。これは、サポートがあるから飲酒や食事回数が多いとも考えられるが、経済状況とも関連していると考えられた。

平成 20～21 年度はホームレス者のピアサポートグループの構築に向けて、介入プログラムを作成し、その研究的評価に関する計画書を作成した。12 回を 1 クールとして、定期的に自主活動を取り入れたプログラムを作成し、評価のための調査表や評価計画を作成した。計画書をもとに、さまざまな機関(NPO, 医療機関, 訪問看護ステーション等)や他職種(医師, 看護師, 臨床検査技師等)と調整を行ったが、計画が進行しないため、月に 1 回の健康相談を行い、顔見知りになった段階で、グループメンバーを募るほうがよいと考えた。平成 22 年 3 月から月に 1 回の健康相談を開始した。平成 22 年 11 月までに 7 回の健康相談を実施し、80 人の相談を受けた。このうち、収縮期血圧 140mmHg 以上あるいは拡張期血圧 90mmHg 以上のものは 39 人であった。ほとんどの相談内容は、血圧測定であり、血圧を気にしていることが伺えた。しかしながら、健康相談からのピアサポートグループ構築には至らなかった。これは、ホームレス者がピア、つまり「仲間」からのサポートに対するニーズがなかったことと、ホームレス支援をしている関係者においては、ホームレス者同士のサポートグループについてその必要性を認識していなかったことが、要因だと考えられた。

仲間からの支援に対するニーズを把握し、介入プログラムの修正をするために、自立支援センター退去後に、集合住宅への

入居とともに常駐の支援者の支援を受けられるプログラムにより自立した元ホームレス者および支援者へのインタビューを行った。元ホームレス者においては、自立支援センター退去後で、就労をしている同じ状況の元ホームレス者である「ピア(仲間)」からのサポートよりも常駐の支援者からのサポートの方が受け入れ易いことが語られた。また、同じ支援者が継続的に支援することで信頼関係が構築され、さらに問題解決のために支援者が様々な人びとと連携して、支援していることが明らかとなった。特に、ホームレス者においては生活基盤が脆弱であり、健康に対する支援を行う際にも、生活問題を解決することの重要性が示唆された。生活問題の解決にはさまざまな職種が連携する必要があるが、常にキーパーソンとなりうる支援者が本人を代弁し、さらには同じ目線で支援をすることが重要である。支援者からは、必要かつ受けられるサービスやその申請方法について説明するだけでは、支援にはつながらないため、支援者が一緒にその場所に行って、申請手続きを一緒にする必要があることが語られた。

ホームレス者への支援の在り方として、ピアサポートグループよりも継続的に支援する支援者を置くサポートグループが有効であると考えられた。そこには、NGO などの民間だけでなく行政などの公的な立場にある保健医療従事者の参画も必要である。

本研究においては、ピアサポートグループそのものの必要性について、ホームレス者自身へのニーズ調査が不十分であったと言える。しかしながら、元ホームレス者へのインタビューを通して、継続的に、積極的に同じ目線に関わる支援者の存在が

ホームレス生活の脱却には重要であることが示唆され、今後のホームレス支援の在り方を考える上で一つの指針となる結果を得たと考える。

今後は蓄積された研究結果を統合し、ホームレス生活の脱却も含めて、より効果的なホームレス支援の在り方について検討する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

最終年度の調査データの分析終了後、投稿準備をする予定である。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐々木 八千代 (SASAKI YACHIYO)

(園田学園女子大学 健康科学部 講師)

研究者番号：10382243